

13) 当院における人間ドック超音波検査8年間の総括

朱 紅・新妻 伸二
 小林 晋一・清水 克英 (新潟県立がんセン)
 樋口 健史 (ター放射線科)

当院における人間ドック8年間の超音波検査の成績を調査した。有所見率は17.9%，手術例は10例，うち無症状の癌は3例であった。ドックにおける超音波検査の問題点をあげると，1. 膵疾患の発見率が低い，2. ドックの超音波は最初，胆嚢造影の代わりに始まったが，腹部臓器全体をカバーするようになった。今後さらに心，乳腺，甲状腺，耳下腺，顎下腺などに広げたい。3. 超音波は，疾患といえないような小さな異常を容易に指摘できる。例えば乳腺や甲状腺の嚢胞，子宮筋腫などである。現在でもこういった「異常？」が外来や検査部門を圧迫している。全国で104万人のドックに，広範囲な検査が普及した場合も問題が多い。

II. 教育講演

1) 脳神経のMRI

新潟大学歯科放射線科
 岡本 浩一郎 先生

2) 心臓・大血管のMRI

新潟大学放射線科
 木村 元政 先生

III. 特別講演

救急医療における画像診断

聖マリアンナ医科大学放射線医学教室教授
 石川 徹 先生